



# 五小だより



五小ブログ



五小ボランティア

9月号

令和6年9月2日(月)

国分寺市立第五小学校

042-322-0045

校長 齋藤 晃

## 2学期もよろしくお願いたします。

校長 齋藤 晃

今日から2学期。五小の子どもたちの元気な姿がまた学校に戻ってきました。

今年度は8月最終週まで夏休みでした。観測史上最も暑かった7月に続き8月も猛暑が続き、嵐のようなゲリラ豪雨、さらには南海トラフ臨時情報(巨大地震注意)が初めて発表された8月8日(木)の地震に加えて、台風にも見舞われています。しかし、すでに閉幕したパリ・オリンピックでは連日熱戦が続き、たくさんのドラマが生まれ、日本は史上最多のメダルを獲得しました。そして8月28日(水)からはパラリンピックが開幕。こちらにも参加選手の活躍に期待したいです。休み中、ご家庭では夏休みならではの体験や思い出はできたでしょうか。

さて、私はこの夏、少しゆっくりする時間をいただくとともに、いくつかの研修、講座に参加し勉強させていただく機会がありました。その中から、要約で申し訳ありませんが一つご紹介します。

7月30日(火)「第1回 保・小合同研修会※1」が、市内保育園と小学校の先生方が出席して第四小学校で行われました。講義では、国立市幼児教育センター所長 細田 直哉 先生から「子どもの『学び』と『育ち』をいかにつなぐか?」と題し、お話をいただきました。

急速な社会変化に伴い、これからの社会で必要とされる資質・能力やその学習観(学び方)も変化しています。学校教育はICTも活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しています。講義の冒頭では、園児たちは本来有能な学習者(=研究者)であるとのお話がありました。幼児は「遊び」を通して環境に能動的に働きかけ、知識・技能・態度などを「自ら学ぶ」意欲や力を備えているからです。保育園の先生は、手元の石をポイッと投げて寄こした幼児に対して、受容し協調して関わっていました。「指示」や「命令」、「禁止」や「否定」をせず、探索・探求・挑戦する意欲の土台=安心感を育み、自我(探求心・自立心)の育ちを促すことが大切だそうです。また、それぞれの子が思い思いのことに取り組めるよう、教室に多様な遊具を置いて、落ち着きや集中、仲の良さを生む「環境調整」の実践や、「簡単な勉強」より「難しい勉強」をしたいと素直な意欲を示す5歳児の姿も紹介されました。そして、このように幼稚園・保育園などで育ってきた子どもの資質・能力を、小学校入学時に0に戻さず連続性を持たせ、「スタートカリキュラム※2」で持ち前の意欲を生かした主体的な学びを接続していくことの重要性が説明されました。

私は、子どもを将来に向け学び続ける「学習の主体者」とする考え方は「架け橋期(未就学児~小学校1年生)」に限らず、全ての学年において大切であると考えました。今回、顔合わせや交流の機会をもつことができた近隣保育園の先生方と、これからも接続・連携を図っていきたいです。

最後になりましたが、2学期は9月の学校公開、道徳授業地区公開講座をはじめ、様々な取組や行事が予定されています。また、11月3日(日)に国分寺市は市制施行60周年を迎えます。引き続き、本校でも一緒に60年の歴史をお祝いしていきたいと思えます。保護者、地域の皆さま、今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

※1 本市では小学校入学への不安を解消しながら期待や安心感を高める目的で、園児や保育所の先生方が就学前に小学校との交流や訪問などを行う「国分寺市基幹型保育所システム事業」を実施しています。今回の研修はその一環です。

※2 小学校では入学した子どもが、幼稚園・こども園・保育園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を作り出していくための「スタートカリキュラム」を作成・実施しています。